

高齢男性の社会参加の促進のための「(仮称) 課題解決の糸口を探るための場」について  
令和5年度第2回生活支援事業協議体 提案事項

<経過> 以前より男性の地域参加が女性よりも少ないという課題があり、前回協議体から男性の生活意識へのアプローチについて取り組むことになった。

令和4年度第3回の協議体をうけ、男性のニーズを把握するために、「男性の地域活動に関するアンケート」を実施した。(調査期間：令和5年3月末から5月19日)

社会参加していない男性へのアプローチは難しく、主に活動に参加している男性にアンケートを行った。

<現状> 活動に参加していなくても、男性はどのような場所、どのような場面で役割ややりがいを感じるのか、アンケートからは見えてこない部分を聞き取るため、男性が多く活動している団体へのヒアリングを行うこととした。

アンケート調査やヒアリングをおこなう中で、各活動団体として「男性の参加者が少ない」、「男性の参加者を増やしたい」などの課題がある事が分かった。一方では女性より、男性参加者の方が多く、さらに世代交代がうまくいっている団体があることも分かった。

<課題> 退職後、仕事から離れ、「行くところ、やりたいこと」を見つける必要があると考える。  
現状の課題を解決するには、「地域の力」が必要であり、地域で取り組む必要がある。

<市からの提案(目指す取り組み)>

活動団体(者)どうしの顔の見える関係づくりと、地域の福祉課題の解決に向けて連携しやすい環境(土台)をつくるため、「男性の社会参加促進」について、多様な主体(活動団体)の「(仮称)課題解決の糸口を探るための場」の設定について提案をしたい。(大田区社協の事例を参照)

ステップ1 「(仮称)課題解決の糸口を探るための場」をつくるための準備会、勉強会の実施(4回程度)。

<検討事項>

- 1.目的の共有とお互いの活動を知る
- 2.各団体が抱える課題を共有
- 3.見えてきた課題を掘り下げる
- 4.連携して取り組めること、出来ることを考える

ステップ2 ステップ1を経て、もっと話したいという声があれば、一定期間の「(仮称)課題解決の糸口を探るための場」の本格始動となる。

<最終目標>

多様な主体が協力して地域の課題を解決できるように地域力を高める。

「(仮称)課題解決の糸口を探るための場」を通して、各主体ができる事を考える。